



はなのき

神坂小学校だより

No.6 2024.8.22



「全力は美なり」

校長 伊藤 博章

30数年前になりますが、私は大学4年生の時に埼玉県の小学校で教育実習をさせていただきました。4週間という期間でしたが、6年生の担任を任せていただき、とても充実した毎日をおくることができたことを覚えています。その時に私を担当してくださった先生が、次のような話をしてくださりました。

「私は『全力は美なり』という言葉が大好きです。結果はどうあれ、人がものごとに関心を持ち、全力で取り組む姿はとても美しいと思うからです。私は担任する子供たちにもこの言葉を伝えるようにしています。いろんなことに全力で取り組める自分を目指してほしいし、全力で取り組んだ人の美しさを認めることができる人に育ってほしいと願うからです。伊藤先生も（私のことです）大学卒業後に先生になった時には、そんな子供たちを育ててほしいです。」

今年の夏休みには、パリでオリンピックが開催されました。たくさんの代表選手が、最高のパフォーマンスを発揮している姿を、連日テレビで放映していました。日本の代表選手も活躍し、メダル受賞の数は、金：20、銀：12、銅：13の合計45でした。

どの競技も勝負事なので、勝者がいれば敗者もいます。この大会の中で、選手たちのいろんな姿を見ることができました。勝った後に満面の笑顔で両手を挙げてガッツポーズをする姿。口に人差し指をあてて歓声を抑えるよう、次に演技をする選手に配慮する姿。負けた後に大声をあげて泣き崩れる姿。負けた後も投げ出してしまうのではなく、次の勝負に向けて気持ちを切り替える姿。その姿から、選手たちはこれまで真剣に技を磨き、努力を積み重ねてきたことが分かります。だからこそ、自分を信じて全力で闘うことができ、応援している人たちに感動を与えることができるのではないのでしょうか。まさに「全力は美なり」です。

やり投げで65m80cmの記録を出し、金メダルを受賞した北口榛花選手は、「すごい選手ばかりなので、重圧を与えられるように一投目から絶対にいききたいと臨んで、有言実行できた。」とコメントしていました。「一投目から全力」という意気込みが最高の結果につながりました。

スケートボードで銀メダルを受賞した開心那選手の所属するクラブには、クラブ4か条という約束があるそうです。①「できない」「無理」は禁句 ②最後まであきらめない ③きちんとあいさつ ④順番を守る の4つです。これを見ると、技術力とともに人間力を磨くことが大切にされていることがよく分かります。

さて、夏休み明けから冬休みまでの第3、第4ステージはたくさんの行事があります。神坂学校運動会、社会科（生活科）見学、修学旅行、文化祭。子供たちは、これらの行事を節目として、学校全体・学級・個人での目標を定めて、達成に向けての取組を進めていきます。楽しいことがいっぱい第3、第4ステージですが、子供にとっては仲間と関わることの大切さや自分自身に対する自信を培う大切な期間でもあります。そこで、これらの行事や日常生活の中で「全力は美なり」を意識させ、全力で取り組める自分のカッコよさを自覚し、全力で取り組める仲間の美しさや素晴らしさを認められるようにしていきたいです。保護者や地域の皆様には子供たちの姿をぜひ直に見ていただき、子供たちが全力でがんばっている姿を褒めていただけたらと思います。

